Staphylococcus capitisによる感染性心内膜炎の一例

聖マリアンナ医科大学 救急医学教室

<u>津久田 純平</u>、 川口 剛史、 平澤 康孝、 藤井 修一、 西山 幸子、 井上 哲也 高松 由佳、 柳井 真知、 下澤 信彦、 森澤 健一郎、 和田 崇史、平 泰彦

はじめに

- ✓ *Staphylococcus capitis*はコアグラーゼ陰性ブドウ球菌(coagulase-negative Staphylococcus)として知られている菌ではあるが、感染性心内膜炎 (infective endocarditis ; 以下IE)の起因菌としては稀な菌である。
- ✓ 今回、人工弁置換後に発症したS. capitisによる感染性心内膜炎を経験した。

症例: 78歳 女性

現病歴:

搬送される前日から37度台の発熱を認めていたが発熱以外の症状が無いため経過観察 していた。その後38度台まで上昇し、加えて悪寒・戦慄が出てきたため救急要請となった。 周囲に同症状の方はおらず、ペット飼育歴や海外渡航歴などはなかった。

ワクチン接種歴:インフルエンザ毎年 肺炎球菌ワクチン未接種

最近の歯科治療歴:なし

病歴以外の熱に関連する陽性症状:頭痛、傾眠傾向

陰性症状:鼻汁、咽頭痛、湿性咳嗽、呼吸困難、腹痛、下痢、排尿時痛、関節痛、背部痛

既往歷:胸部大動脈瘤 大動脈弁狭窄症 高血圧 脂質異常症

手術歴:X-1年 上行弓部大動脈人工血管置換術および大動脈弁置換術

内服歴: アスピリン100mg 1錠分1 ビソプロロール2.5mg 2錠分1 エソメプラゾール20mg 1錠分1 ロスバスタチン2.5mg 2錠分1

アレルギー歴:特記事項なし

搬送時バイタルサイン

血圧151/69mmHg 脈拍103bpm(NSR) 呼吸数24/分 体温39.4度 SpO₂ 94%(4L/min face mask)

身体所見

意識: E3V4M6 苦悶様

頭頸部:貧血無し 黄染なし 点状出血無し 口腔内リンパ節腫脹なし 扁桃腫脹なし

項部硬直なし jolt accentuationなし

胸部:呼吸音清 左胸骨傍第4肋間を最強とする収縮期駆出性雑音あり(Levine II/VI)

1) Kamalakannan: Staphylococcus capitis Endocarditis: A Case Report and Review of Literature. Infect Dis Clin Pract 2004:12:314-317

3) Terada Y, Mitsui T, Enomoto Y: Prosthetic valve endocarditis caused by Staphylococcus capitis. Ann ThoracSurg 1996:62:324

腹部:平坦・軟 BS正常 明らかな局所の圧痛なし

背部:CAV叩打痛なし

四肢:皮疹なし Osler結節なし Janeway結節なし

神経所見:脳神経Ⅱ-XⅡ問題なし 筋力:両上下肢 左右差なく共に5/5 反射:左右差なし 病的反射は認めず

採血検査

血算			生化学					
白血球	11,800	/μL	TP	6.8	g/dL	Na	143	mEq/L
赤血球	4.72	10 ⁶ /μL	Alb	4.1	g/dL	K	3.6	mEq/L
ヘモグロビン	14.7	g/dL	T-bil	0.7	mg/dL	Cl	101	mEq/L
Ht	44.0	%	AST	39	IU/L			
MCV	93.2	fl	ALT	37	IU/L	血糖	110	mg/dl
血小板	124	10³/μL	LDH	273	IU/L			
凝固			BUN	10.7	mg/dL	CRP	2.78	mg/dL
APTT	31.7	sec	Cre	0.73	mg/dL	PCT	0.13	ng/mL
PT-INR	1.01							

尿検査 髄液検査

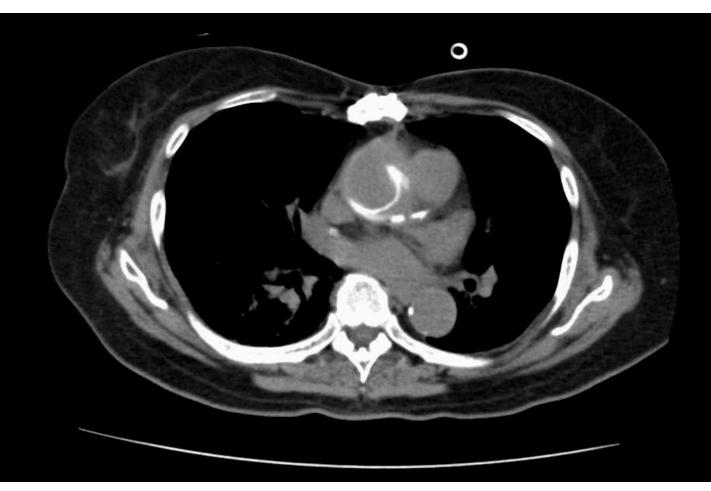
рН	6.5	細胞数	6
蛋白	_	単核球	1
糖	_	多核球	5
潜血	_	蛋白	48
沈渣	Ī	クロール	125
赤血球	1-4	糖	66
白血球	1-4		·
細菌	_		
円柱	_		





胸部CT検査

2) Tamaki Takano: Prosthetic valve endocarditis caused by Staphylococcus capitis: report of 4 cases. Heart Lung 2009:37:380-384







入院後経過 GM -----抗菌薬 VCM:バンコマイシン RFP GM: ゲンタマイシン RFP: リファンピシン 経口VCM day44 day3 day19 day24 day32 day56 day14 day1 血液培養 C.difficile toxin陽性 3セット陽性 手術中止 S.capitis 40.0 39.5 39.0 10 38.5 38.0 —WBC(X10^3/μg) 一発熱(°C) 37.5 -Cre(mg/dL) 塞栓症状発症後も可動性のある 36.5 36.0 10mm以上の疣贅 フォロー血液培養 35.5 疣贅消失 2セット陰性 35.0 左上下肢麻痺 左協調運動拙劣 頭部MRI検査 lasix HFNC: high Flow Nanal Cannula ネーザルハイフロー® 心臓超音波検査 胸部レントゲン検査

考察

- ✓ *S.capitis*はヒトの常在菌で病原性は低く、異物へ癒着する能力が高くないため、自己弁および人工弁のIEの起因菌としては稀である¹⁾。わが国では高齢者における有症状の 弁膜症への心臓手術が増加しており、弱毒菌である本菌も易感染性宿主である高齢者においては脅威となりうる²⁾。
- ✓ 人工弁置換後のS.capitisによるIEは診断後早期に手術を行うことで塞栓合併症を回避出来たという報告もある²⁾³⁾。本症例でもS.capitisによるIEの診断がついていたことから、 早期手術が最優先されるべきであったかもしれない。ただし内科的治療のみで合併症が最小限で済んだことを考えると、手術耐用性の低い症例にはclose monitoringでの適切な 抗菌薬治療も考慮しうる。

結語

S.capitisによる感染性心内膜炎を内科的治療のみで合併症を最小限に抑えた一例を経験した。

Creapiciote de didicional de la minore della minore della minore de la minore de la minore de la minore della minore della

日本集中治療医学会 СОІ 開示 筆頭発表者名: 津久田 純平

日本集中治療医学会 COI 開示 筆頭発表者名: 津久田 純平 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。